

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 21 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520291

研究課題名(和文)アーミッシュとイスラム系児童文学にみる宗教的世界観の構築と受容

研究課題名(英文)Construction and Reception of Religious World View in Amish and Moslem Children's Literature

研究代表者

大藪 加奈 (Oyabu, Kana)

金沢大学・外国語教育研究センター・教授

研究者番号：30283146

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：この研究では、21世紀の先進国における宗教と文学の関係を、児童文学に焦点をあてて分析した。主要研究対象は、アーミッシュ社会とモスLEM社会を対象に出版されたキリスト教系児童文学とイスラム系児童文学である。これらの作品が、読者の子どもたちに近い登場人物の日常生活をどのように描いているか、自然との関係や逸脱と赦し等の頻出する主題を中心に、テキスト分析と受容研究を行う事で、明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study examines the relationship between religion and literature in 21st century developed countries by text analysis and reception analysis. Materials used are Christian and Moslem children's literature for Amish and Moslem children. The study examined, by textual analysis and reception research, the way works support immigrant and other child readers, who have different world views from the society surrounding their community in terms of lifestyles, religious practises, and culture, by showing daily lives of characters similar to them. Recurrent themes such as relationship between characters and nature as well as forgiveness in face of disruption have been looked at.

研究分野：Children's Literature

キーワード：Children's literature Religion Amish Moslem

1. 研究開始当初の背景

(1) 児童文学の宗教性(主にキリスト教)に関する研究

児童文学における宗教性については、国内でも研究が進んでおり、たとえば、大澤千恵子、本多峰子、L.Lundmark がアンデルセンや宮沢賢治、C.S.ルイスなどの作品にあらわれる宗教性や宗教的体験について論じていた。文学とキリスト教の関係はよく扱われてきたが、現代アメリカ社会で固有の宗教教義に基づく独自の生活様式を維持しているアーミッシュの児童文学については、ほとんど研究されていなかった。アーミッシュの読み物は、社会科学分野で杉原利治・大藪千穂(研究分担者)が Family Life の内容を研究しており、大藪加奈(研究代表者)はこの二人の研究者と共に、平成 22 年春より Family Life 掲載の創作物語 310 編(2003 - 2008)を先行研究(研究分担者による、1994 年から 2002 年までの 360 編の分類と考察)に基づいて分類し、頻出する主題を特定してテキスト分析した。21 世紀の児童文学において、明確な宗教意識を持った読者を対象とする物語の再登場は、大きな主題のひとつと言え、研究に値するテーマと言える。

(2) イスラム系英語児童文学の研究

この分野では、書評や図書目録(例: Judith Lechner, The World of Arab and Muslim Children in Children's Literature)は存在したが、本格的な研究は Torsten Janson が Your Cradle is Green The Islamic Foundation & the Call to Islam in Children's Literature(2004)で、The Islamic Foundation 発行の絵本(未就学児が主な対象)を扱ったのが最初である。大藪が、平成 19 年より科学研究費を得て行った研究は、この先行研究を一步進めようとするもので、イギリスで発行されているイスラム系児童文学の現状を調査すると共に、学齢(5 - 14 歳)にある読者を対象とした物語の分析を行った。先行研究では挿絵の分析が行われたが、大藪は主にテキスト(ことば)の分析を行い、学齢児童対象の文学では、未就学児とは異なり、登場人物を取り巻く非イスラム社会との関係が、重要な主題となる事を確認した。イスラム・非イスラムという二項対立におさまりきれない世界観が描かれているこれらの作品では、それぞれの宗教的世界観を参考にしつつ、作中の表現を丁寧に分析する作業が必要である。児童文学の主要国際学会は、マイノリティーや移民、多文化共生をメイン・テーマにしており、国際的関心が高まっているこの分野で、先駆的な研究を続ける事の意義は大きいと言える。

(3) イスラム的背景を持つ作家の作品研究
1980 年代・90 年代から Salman Rushdie や Hanif Kureishi など移民作家や移民 2 世、3 世の作家たちの作品はよく研究されるよう

になった。たとえば日本においては、大熊榮の「サルマン・ルシュディの文学」や大藪による「The Satanic Verses and Migrants' Language」 「A Note on the Treatment of Music in Hanif Kureishi's The Black Album」などの研究成果が上がっている。これらの作品では、イスラム系文化背景と、欧米若者文化やヨーロッパ的文学芸術表現との葛藤が、重要な主題のひとつとなっており、大藪はそのような作品に見られる葛藤や、ヨーロッパ的価値観とイスラム的価値観の対立に関する研究を深めてきた。しかし、21 世紀のイスラム系文化背景出身作家たちは、欧米のイスラム系移民文化の中で育ち、それを土台として自己形成することで、自分を取り囲む社会に「個」としてではなく、「集合体の一員」としても関わっている。そこで、これまで有効だった研究手法は維持しつつ、後述する Gayatri Spivak が提案した「個」の意識と「集合体」意識の揺らぎや交渉的關係に注目して作品を分析することを考えた。

(4) 比較文学・批評理論研究

言語・文化的背景の違う文学を比較する分野では、伝統的に言語や特定文化の特徴を明かにする本質主義的研究や、ある作品への別の作品や文化の「影響」を論ずる研究が多かった。しかし、2003 年に Gayatri Chakravorty Spivak が Death of a Discipline を発表して、研究手法自体を分析し、分類や比較の過程で使われる研究者のバイアスを明らかにしつつ作品を論じるという方法が比較文学研究に加わった。職業作家・アマチュア作家・読者の区別が明確でない今回の研究対象では、テキストで構築される宗教観・世界観の分析とそれぞれのコミュニティーにおける作品の受容調査は共に大切である。「個」を重んじる人文学者と「集合体」に関心を向ける社会学者の敵対関係は不毛である、という Spivak の指摘を勘案して、本研究では文学研究者と社会学研究者が協力して宗教的テキストに向きあった。今回の主要研究材料は共に多言語背景を持つ読者を対象とした英語文学だが、宗教的英語児童文学テキストの研究で得た分析方法が、アーミッシュ・イスラム系文化と関連のある他言語の宗教的児童文学にも有効か、研究分担者の協力を得て検証し、将来的に比較文学分野にも貢献するための、足がかりにすることを考えた。

代表者および分担者の研究背景としては、次の点があげられる。

- ・現代イスラム系児童文学のイギリスにおける現状を調査し、作中に現れるイスラム・非イスラム世界の描写を分析して、研究対象に見合った研究方法を構築した。(大藪加奈)
- ・アーミッシュ家庭のほとんどが購読している Family Life の子ども用物語 360 編について、登場人物の年齢、作品設定、アーミッシ

ユ的価値の描写等进行分析し、よくあらわれる主題や情報、環境、ライフスタイルの相互関係について、基本理論を発表した。(杉原・大藪千穂)

・Family Life 掲載の物語のうち、先行研究に続く 310 編について情報分析した。(大藪加奈)

・1920 年代の日独プロレタリア革命童話の作品分析および受容研究を行った。(佐藤)

・フランス語の物語における発話様態の研究や現代フランス文化・フランス語教育についての研究を行い、授業・公開講座・論文で成果を発表した。(三上)

・母語話者教員の立場から、英語のイディオム表現について研究した。(ピントリフ)

・トルコの文化と人々の生活について現地調査を行い、放送大学対面授業等で発信した。(大藪加奈)

2. 研究の目的

この研究では、21 世紀社会における宗教と文学の関係を、児童文学に焦点を当てて考察した。主要研究対象は、アーミッシュのキリスト教系英語児童文学と、イスラム系英語児童文学である。具体的には、アーミッシュの月刊誌 Family Life に掲載された子供向け読み物(1995 - 2010)と、同時期に発行された児童用イスラム系物語のうち、対象年齢や作品の長さが似ているテキストを扱う。ファンタジーを否定する宗教系児童文学は、どのように宗教的世界観を構築しているのか、テキスト分析と受容調査によって明らかにすることも目的の一つである。また、キリスト教とイスラム教の児童文学は発行国や使用言語によって類似点や相違点があるのかを調べるために、ドイツ語・フランス語・トルコ語で書かれた児童文学との比較も行う。

研究期間内に、アメリカ合衆国で発行された Family Life の児童文学作品(1995-2010)と、同時期に発行されたイスラム系児童文学作品の宗教的世界観の構築と受容を、テキスト分析と現地調査によって研究する。また、同時期にフランス語・ドイツ語・トルコ語で発行された宗教的児童文学の調査および受容分析も行って、マイノリティー社会の宗教的児童文学を研究する方法論を確立することを目指す。

3. 研究の方法

アーミッシュ児童文学作品(既に収集分類済み)とイスラム系児童文学を収集分類し、それらのテキストを分析する。作品の受容状況については、現地調査を行い、特に重要と認められる主題や表現方法に関して読者がどのような認識を持っているか調べる計画であったが、種々の理由で現地調査を行う事ができないこともあったので、現地調査と共に、インターネット上に展開されている読者

クラブ等の記述も受容調査に加えた。以上の作業で有効だった宗教と児童文学のかかわりについての研究手法が、ドイツ語、フランス語、トルコ語の児童文学作品やその受容状況の研究に有効であるか調べるため、それらの言語の出版物の調査・収集や比較を行った。

また、国内外の学会に出席して、研究成果を発表すると共に、それらの学会での議論や、他の研究者からの助言をとおして、さらに研究内容を吟味する。

4. 研究成果

本研究は、まだほとんど扱われていないアーミッシュとイスラム教徒対象の英語児童文学作品を主な研究材料として、宗教と文学(児童文学)の関係を明らかにしようとしている点、またそれらを組み合わせようとしている点、またそこで得られた研究成果を他言語の宗教主題の児童文学に当てはめて検証しようとしている点が独創的である。

また、本研究は、人文学研究者と社会学研究者の共同研究である点に特色がある。それぞれ異なる研究分野に携わる者が共同で取り組むこのような研究形態は、宗教と文学の関係をより多角的に捉えるには必要であった。

イスラム系児童文学研究とアーミッシュ児童文学研究においては、この課題研究をはじめ当初より、国際学会での発表のうちに共同研究の申し込みや次期学会での発表依頼を受けるなど、他の研究者からの当研究課題への関心の強さが伺われた。今回の共同研究もそのような研究協力者を得ることで可能になったものといえる。

合衆国のアーミッシュとイスラム系移民は、共に現代社会の中でマイノリティーとして暮らしながら、宗教教義に基づくライフスタイルを維持している。周囲とことなるそのようなライフスタイルが、これらのコミュニティのアイデンティティーにもなっている。本研究において、それらのコミュニティの児童文学を分析してみると、宗教それ自体や教理についての記述は創作物語にはあまり直接的な形(たとえば教訓や信心の描写)ではあられず、それよりもこれらのコミュニティで生きる子どもの生活に密着した背景や物語描写が作品の中心になっていることがわかった。つまり、作品は改宗を促す目的で書かれているのではなく、既にもともとその宗教コミュニティ内にいる読者にちかい登場人物を描くことで、マイノリティーである読者に寄り添う作品となっている。

研究を進めるに従って、自然との関係や動物の描写などが宗教的世界観の構築に大きく関わっていることから、環境文学理論と宗教倫理を使って作品を読み解く手法が、これらの作品を分析する上で、有効であることが

わかった。

また、受容研究では、テロリズムや政治的な動きによって、必ずしも当初計画していたような現地調査ができない場合もあったが、この研究期間中にインターネット上の読者環境や、作者・読者が自分の考えを表現する機会はより豊富になったので、インターネット上の記述も分析の対象とする授業分析を取り入れることができた。

現代社会においては、日々発展する情報環境によって新しい生活文化が展開される可能性はあるが、ともすれば既存の考え方を深く検証せずに増殖させて、可能性を狭めてしまう危険もある。宗教主題の児童文学は、伝統的な価値や世界観へのノスタルジアが色濃くでる場合もあるが、作品が描く宗教コミュニティの視点において、現代社会が提供する便利さや価値観と距離をおくオルタナティブな生き方が示唆されており、それを環境文学理論の観点から読むことは、オルタナティブな世界観の構築方法や、その世界観がどのように受容されるかを具体的に明らかにできる、という意味で、持続可能な社会構築を探るために有意義であると言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

大藪加奈「イスラム系英語児童文学における自然と環境」『日本イギリス児童文学学会会報』(2015年春季号、)査読無し、pp.29-30(2015)

大藪加奈「宗教的コミュニティを描く児童文学」『日本イギリス児童文学学会会報』(2015年春季号)、査読無し、pp.49-50(2015)

Chiho Oyabu & Kana Oyabu, "Health Issues in *Family Life*" 『岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)』査読無し、62巻2号pp.143-151(2014年)

大藪千穂、杉原利治、"Analysis of Amish-Based Education: Through the "Children's Section" of *Family Life Magazine*" National Museum of Ethnology 査読あり 49-62.(2012)

佐藤文彦、「ヘルムニア・ツア・ミュレンのオーストリア文学史記述におけるグリル パルツァー、ライムント、ネストロイメタ文学としての試み」『日本独文学会研究叢書』査読あり、82号、19-30(2012年)

大藪千穂、「アーミッシュから「家族」を考える」『家庭関係学』査読あり、30巻、83-88、(2011)

[学会発表](計9件)

Kana Oyabu, "Praying for the Culprit:

Forgiveness in Amish-themed children's literature", *The Child and the Book* 2015 (第11回大会)(2015年3月28日、アヴェイロ大学、ポルトガル)

大藪千穂、「アーミッシュの消費者教育(2)保健体育の教科書分析」消費者教育学会中部部会(2015年1月24日椋山女学園大学)

大藪加奈「イスラム系英語児童文学における自然と環境」第44回日本イギリス児童文学学会研究大会(2014年11月30日、文教大学)

大藪加奈、「宗教的コミュニティを描く児童文学 アーミッシュ児童文学の受容」日本イギリス児童文学学会中部支部・日本児童文学学会中部支部合同例会(2014年9月28日、名古屋大学)

Chiho Oyabu & Kana Oyabu, "The analysis of health issues in *Family Life*" Amish Conference 2013 (2013年6月13日、エリザベスタウンカレッジ・合衆国)

大藪加奈、「アーミッシュ児童文学における少女像について」児童文学とジェンダー(シンポジウム)(2013年3月9日、金沢大学)

大藪加奈、「イギリスにおけるイスラム系英語児童文学」日本イギリス児童文学学会(2011年11月19日)(中部大学)

Kana Oyabu, "Transgression as Rumspringa theme in Amish Children's Literature", 20th IRSC(LInternational Research Society for Children's Literature) Congress (2011年7月5日、クイーンランド工科大学、オーストラリア)

[図書](計1件)

大藪加奈、「英語で書かれたイスラム児童文学」『国際学への扉 - 異文化との共生に向けて』鹿島正裕編(風行社)査読無し、pp.154-16(2012年)

6. 研究組織

(1)研究代表者

大藪加奈(OYABU, Kana)

金沢大学・外国語教育研究センター・教授
研究者番号:3028146

(2)研究分担者

杉原利治(SUGIHARA, Toshiharu)

岐阜大学・教育学部・教授(2012年まで)
研究者番号:70092939

(3)研究分担者

大藪千穂(OYABU, Chiho)

岐阜大学・教育学部・教授
研究者番号:10262742

(4)研究分担者

三上純子(MIKAMI, Junko)

金沢大学・外国語教育研究センター・教授
研究者番号：10209728

(5)研究分担者

ジョン・ビントリフ (BINTLIFF, John)
金沢大学・外国語教育研究センター・教授
研究者番号：80598441

(6)研究分担者

佐藤 文彦 (SATO, Fumihiko)
金沢大学・歴史言語文化学系・准教授
研究番号：30452098